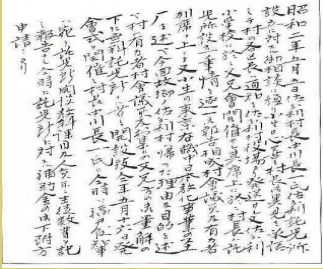


沿革



昭和2年5月16日 佐分利託児所開設

旧大飯郡佐分利村佐畑出身の田中松太郎は東京目黒のクリスチャン教会の設立に参加し、初代牧師としてキリスト教伝道に従事した。しかし、昭和2年4月に、松太郎は妻エツとともに目黒を去って帰郷し、同村石山に託児所を開設した。当時本格的な託児所として、佐分利保育所は福井県下で施設初の施設であった。

松太郎は託児所敷地として現在の土地を入手し、元久保の旧家柿本五兵衛氏が所有していた納屋を購入した。納屋といっても、瓦葺の頑丈な木材を使用した頑丈なもので、二階も階下ともに十畳四室ずつの豪壮な建物であった。

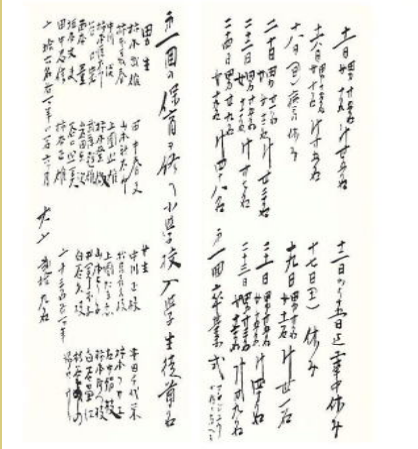
無料通年制

佐分利村には木炭業者が百七十戸もあった。夫婦共に未明から山に入って働くため、子供は家に置きざりにされた。稲作農家もまた、終日、田の畦に幼児を置いて、その泣き声を聞きながら農作業に励んだという。さらに、両親の留守のあいだに、子供のいたずらが原因で起きたとされる火災がいくつも記録されている。そのような状況にあったため、当時の佐分利村村長の中川長一氏は託児所を造っていただくのは大変な難いことだが、村民には保育料を払う家計上の余裕はないだろうとした。それを聞いた田中松太郎は快く、保育料はとりません、無料通年制でやりま

苦難の経営

両親からは保育料を徴収しない、という方針で始めたものの、当然のことながら、経営は困難をきわめた。田中エツによれば、＜無料通年制であるから、開始早々から毎日40名から50名の幼児が集まってきたのは誠に喜ばしいことであったが併し何かでこの経費を賄わねばならぬため田中松太郎は東京に在住していた関係から、毎年上京して、それまで縁故のある三井報恩会、原田積善会、酒井伯爵、飛鳥文吉、田中文蔵、須田孝太郎、添田敬一郎の各位に寄付を頼み、これが経費に充当したのであるが、いつも経営難に陥り、昭和3年1月、警察に届出て、頼母子講（保育講と命名して）会員30名、1人当たり半年に20円総額600円というようなものを組織し第2代所長用中弾次郎が50周年記念誌に寄せた「お祝いの言葉」からの抜粋・要約

昭和2年5月12日に 無料通年制による保育所の開所式が挙げられた。妻エツ氏が主任保母となり、懸命に従事した。しかしながら、事業は、2年4年5年と続けられたのが、その苦難たるや筆紙に尽し難いものであった。第一経営上の問題である。保育料は無料であり、その全部は経営者の負担である。誰か使命に生きねば、かかる割りの悪い仕事をする者があるであろうか！さらに村当局者をはじめ村民一般の全く無知に近い無理解である。エツ氏が『愛育』第1巻第4号に寄稿した一文の中に、「私の託児所は無料ですから経営が非常に困難であります、村民は少しも考えないのみならず、元牧師をしていたのだから、外国からお金がたくさん来るとか、また儲け仕事にしているのかとよく考えられたのでした。またようは金を工面して幼児のためスベリ台を造ってやりましたところが、村の人たちは、あんなものを造って子供の着物のお尻が破れて困ると云って喜ばれないような状態でした。創立6年目ごろから村の人たちが理解しはじめ、て、村から年に3円の補助金を頂戴した。私は、この時程感激にむせんだことはありませんでした」と語っている。わずか年に3円、否、10円にしても、どこの村、町で、かかる僅少な金を補助金として出しているところがあるうか。しかし、いかなる場合においても、幼児たちは、ここに、新天地楽園を見出し、嬉々として伸びつつあるのであった。遠くは一里離れた村から、幼い子供達が嬉々として集るさまは、誰の目にも涙なくして見られない姿である。しかし、田中松太郎は無理解や経営難ぐらいて（保育事業を）中止するほど意志薄弱な人間でない。事業を放擲するには、あまりにも故郷を愛しすぎていたからだ。また彼をよく知る人々は、彼がいかに精神的活動力のある根強い敗けし魂の所有者であったか知っておられるはずだ。彼はやりかけたら成保育所は田中正よの恵平の教会の持ち主やあは保育内容をたのしみ精神の豊饒も努力さす想像四糸男あるもあはは佐分利村のあははは二彼は福井県中津川郡佐分利村に建設した、田中エツ諸師とせ、衆弾自黒の録る保育所の紙を店を東京箱根の活動の後には目遊び、お散歩等であった。



子供達と施設に広がる田園風景



昭和2年度 第1回卒園写真

昭和7年9月1日

田中松太郎は佐分利託児所の経営を支えるため幾度となく東京に足を運んでいたが、創立以来5年を経過しやっと経営も軌道に乗っていた。そして以前牧師として勤めた目黒教会に対する恩返しの気持ちで教会の向かい側に友愛目黒保育所を開設したのである。



昭和9年1月15日 高松宮殿下より御下賜金の光栄に浴す

第2代所長田中卯一郎が『50周年記念誌』に寄せた「お祝いの言葉」からの抜粋

斯くしてなすこと七年即ち、昭和九年一月末に意外であった。それは恐れらくも高松宮殿下（有栖川宮記念厚生資金御奨励金御下賜の光栄に浴したことである。このことは彼をして感激感泣せしめたものである。その長男に送りし書の中に、「全く村の光栄だ、身の光栄であり田中家の光栄であり祖父佐々木光太への唯一の土産である。我がなき後も、御高恩に報いねばならん」と其の子を諭したものである。ここに於て一層の保育報国を念願し記念保育所新築を計画し、漸次集まる村内有志の後援並に、三井報恩会、原田積善会の多大なる援助の下に理想的な保育所の新築が完成せられたのである。新築落成式は昭和十年五月挙行せられた。村の有力者は全部参集して我が村の誉として喜んだ。

児童保育に努む生業
 援助ノ實ヲ舉ゲ成績
 見ルヘキモノアル趣
 宣仁親王殿下ノ聞ニ達シ
 御奨励ノ思召ヲ以テ
 有栖川宮記念厚生資金
 金壹封其所賜與相成也
 昭和九年一月十五日
 高松宮殿下御下賜金
 佐倉龍蔵校長書意

第2回から第8回までの卒園写真

昭和3年度 第2回卒園写真

昭和4年度 第3回卒園写真

昭和5年度 第4回卒園写真

昭和6年度 第5回卒園写真

以上の努力は彼の精神的肉体的健康を損ねたものであろうか、更に、なさねばならぬ仕事、佐分利の於ける実費診療所の開設、東京の諸事業を計画し乍ら突然と病の床に倒れた。それは昭和十年十一月一日である。即ち前日目黒保育所の幼児一同を引率して上野動物園に行き翌日床について近々二十日間、即ち一月三十日死去したものである。享年六十五歳である。知人同僚では、時の文部次官添田敬一郎氏は死去の報に駆けつけ死に顔を身乍ら、「惜しいことをした少し生かしておきたかった」と強く一言云われた。原田積善会の河崎藤重郎氏は、「実に単純、率直な人だった」と云われた。参集の知人友人凡そ其の死を惜しんだ。これ真に彼のしからわする処であり、また一大光栄の至りである。彼は、死の前、長男に「残念だと云った。これしきの病で死ぬのかとも云った。然し万の一の場合は、佐分利と目黒を継いでくれ」と云ったが私は自分の天職である牧師をやる故嫌だと断つたが彼は、「断ててやってくれ、でないと、こんなに後援者もいなくなるぞ」と云った。彼は、死の直前に「おれは、今、この偉業を繼承して目黒の保育所をやっている。(昭和十二年一月記す。)

孝 昭

第9回から第14回までの卒園写真

昭和11年度 第10回卒園写真

昭和13年度 第12回卒園写真

後援会を組織して村内有志百二十名の会員を得、特別会員は年額一円以上、通常会員は年額五十銭以上として、数年継続し急場を凌いだこともあった。

[illegible][illegible][illegible]

昭和十五年三月三十一日 経営者田中卯一郎は東京目黒に於いて、亡父の遺業、託児所と授産場とを管理することは不可能にて何かと不都合なる故を以て、実質的な所長田中エツに名偽変更したのである。



昭和15年頃の佐分利のスナッフ写真

然るにこの当時から、昭和16年12月大東亜戦争勃発し、物資は不自由を極め各階級共に生活は実にみじめな状態に陥った。エツは一人の家庭なるが故に米は十二目分、多くて十五目の

第15回から第20回までの卒園写真

昭和16年度 第15回卒園写真

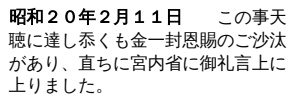
昭和17年度 第16回卒園写真

昭和18年度 第17回卒園写真

昭和19年度 第18回卒園写真

昭和20年度 第19回卒園写真

昭和21年度 第20回卒園写真



第39条 保育所は、日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育することを目的とする施設とする。

昭和24年5月16日とが佐分利託児所を佐分利
保育所に変更

取 入		支 出	
内	訳	内	訳
一金 二千四百五十円		一金 二千四百五十円	
金 四百十三円	果 助 成 金	金 二百五十円	保 育 材 料 消 耗 品
金 五百円	慶 福 会 助 成 金	金 二百円	保 育 ャ ン 代
金 一百円	宮 内 省 御 下 賜 金	金 五十円	衛 生 費
金 二百円	慶 福 会 助 成 金	金 五十円	事 務 費
金 六十二円	農 繁 期 補 助	金 三百円	燃 料 費
金 十二円	佐 分 利 村 補 助	金 三百円	修 繕 費
金 百円	篤 志 寄 附	金 百円	
金 六百六十三円	経 営 者 負 担	金 一千二百円	保 母 給 料

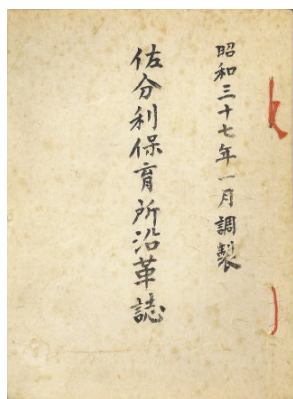
昭和二十一年度決算書

保育施設給食用基準額表（一人一日）							
							昭和二十五年四月二十八日
品名	数量	熱量	蛋白質	金額	備考		
脱脂粉乳	二五	九〇	八・九	四三・六〇	カロリー八九を訂正 蛋白質五四を訂正		
味噌増	一〇	一五八	一一	四五・四〇			
砂糖	五	三〇	〇・三五	四一・八			
野菜	二三	七八	〇・一二	三八・五			
油	一五	一三五	〇・八五	四八・八			
魚料	二〇	九五	〇・四三	四九・三			
燃料	百六十付東	三七七	五五	一九・九三	一東 三、五五〇 娯教用機掛 三元八十錢		
計	一〇二五	一七九八	一六一四	三八五三			
昭和二十四年度決算書							
		収入	支出				
金 三万八千円	共同募金	金 一万四千四百円	所長俸給				
金 一万二千八百四十円	寄附金	金 二万六千五百九十円	保姆給料				
金 一万一千八百五十円	幼児月謝料	金 三千三百四十六円	旅費				
金 五千七百六十円	雑費 (父兄心付け)	金 千七百九十円	普通費				
合計 金 六万八千四百五十円		金 七十七円	雜費				
		金 一万八千三百十一円	事業費 事務用品 燃費 慰安料				
		金 三四百五十二円	修繕費				
		合計 金 六万八千四百五十円					

昭和31年6月13日 30周年記念の集い



昭和31年6月13日 30周年記念の集い



昭和34年度から法律を以て、幼児世帯の階層区分によりA B C Dに区分して徴収することになった。この頃から保育所経営も変革期に入りやと苦況を脱してきたのである。しかしそれと同時にこの頃から、経費の調整経理の適正化が進み、殊に保育所の如き不なれな者ばかりの存在で、完全な報告や記帳をすることは容易なことではなかったのである。

昭和37年1月24日 創立35周年、給食準備室改築竣工祝、母の会と三つの催おしを合せて祝賀会を開催する。
午前11時開会

開会の挨拶 口永大和の国

- 一 聖書朗読 田 中
- 一 讃美歌二九 こどものともは
- 一 挨拶 田 中
- 一 お話し、思い出 田 中
- 一 遊戯 田 中
- 一 終りの祈り 田 中
- 一 閉会の辞

来客

共同募金事務局長井ノ口英信殿 福岡県児童課長殿
大飯町長永谷刀禰殿
中川自然殿
父子 田中むめを殿
成田医院殿
福谷 中川富貴子殿 以上七名
集合したる保育児童 四十五名
同 母 四十名

賭方手伝のため御依頼したる佐畑区の主婦各位 山口なか、柳原町子、畑中貞子、谷口はる、盛本喜代子、盛下節子、柳原美知子、谷口こよ、山崎百合子、柳原貴代田中エ以上岸崎多ミエ、柿本利子、柿本千代恵 以上四名 右
同日午前十一時開会、午後一時閉会
午後一時一同に昼食を饗応し、午後二時記念のため撮影して、全く終了したるは午後五時であった。

昭和39年10月7日 第12回中日功労者として表彰・祝賀会を開く。

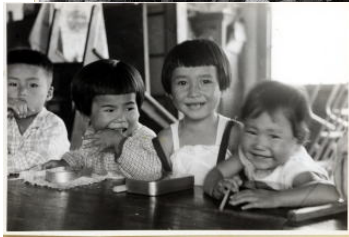
- 午前十一時開会 プログラム
- 一 我が大和の国 讃美歌五十九 会衆一同
 - 一 御挨拶 田中園長
 - 一 聖書朗読 田中園長
 - 一 お祈り
 - 一 祝辞 佐藤代理助 会衆一同 山口安三
 - 一 思い出の数かず 元後援会長 中川自然
 - 一 思い出を語る 田中園長
 - 一 五輪おんど 園児一同
 - 一 閉会の辞 田中園長



午後一時来賓、園児及び母の会一同に昼食を饗応し一同歓をつくす。昼食後本日の出席者園児四十九名、母姉四十八名、来賓及び職員一同記念撮影をする。全く行事終わり解散したのは午後五時であった。

昭和35年頃のスナップ写真

D 階層		C 階層		B 階層	A 階層	※1月初日の世帯構成区分 階層区分	徴収金基準額表 昭和三十四年度より施行
A及びB階層を除き前年分所得非課税世帯						※2階層区分	
第二階層		第一階層					
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	生活保護法による被保護世帯		
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び所得割課税世帯		町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	町村民税課税世帯	
A及びB階層を除き前年分の所得割課税世帯		前年度分の市町村民税の均等割及び					



第29回から第38回までの卒園写真

昭和30年度 第29回卒園写真

昭和31年度 第30回卒園写真

昭和32年度 第31回卒園写真

昭和33年度 第32回卒園写真

昭和34年度 第33回卒園写真

昭和35年度 第34回卒園写真

昭和36年度 第35回卒園写真

昭和37年度 第36回卒園写真

昭和38年度 第37回卒園写真

昭和39年度 第38回卒園写真

昭和42年11月 創立40周年記念会

昭和42年11月17日 創立
40周年を記念して大飯町より
感謝状をうく。

エツ園長は当年80歳となり、

その意味も含め創立記念会を役場関係者、保護者会、中川自然
昭和44年頃の保育内容数名で行った。

園児が全員集まった9時頃から、エツ園次にお話が始まる。そして、戦前、戦中0分ぐらいだっただろう。それが終わるいから保育資格をもった保育士が増え、んで、堀口さん石蔵さんなど地元の方、修さん宅に下宿して保育所に通ってこが、職員全員朝7時までに入り、仕事職場を離れるのが午後7時すぎだった。そこまでは当たり前だと思われる方がおられるかも知れませんが、夏ならそれでも良い。しかし冬は当時よく雪が降り、職員さんは朝の6時過ぎに歩いて保育園に来て、1月15日の通園の時道が雪が溜まるから寒い保育士さんばかりだった。

創立と共に保母として勤務、創立者の夫、田中松太郎の死後も一人滞り、幾多の苦難を乗り越え、保育者としての全人生を佐分利の子供たちに捧げたのである。その業績、人生は福井県の、いやまた日本の保育史と申して過言ではあるまい。「夫の亡くなった時、苦況に陥った時、戦時中および終戦後、物資の極端に欠乏した時、幾たび閉鎖しようと思ったか知れない。それでも一端、乗り出した船だから頑張ろうと勇気百倍、漸く今日に至ったのであります。過ぎし日を回顧すれば実に感慨無量であります」とエツ氏は述懐する。（創立35周年記念に際し中川長一郎氏記述）享年82才であった。なおその業績に対し被表彰の主なるもの、次のとおりである。

- | | |
|------------|----------------|
| 一、昭和15年4月 | 佐分利村教育会より |
| 一、昭和16年1月 | 佐分利村教育会長より |
| 一、昭和17年2月 | 福井県知事三好重夫氏より |
| 一、昭和19年10月 | 財団法人中央社会事業協会より |
| 一、昭和20年2月 | 宮内省より下賜 |
| 一、昭和20年5月 | 全日本健康乳幼児表彰会長より |
| 一、昭和29年7月 | 福井県知事小藩治和氏より |
| 一、昭和39年9月 | 中日功労賞をうく |
| 一、昭和43年6月 | 福井県知事中川平太夫氏より |
| 一、昭和45年11月 | 厚生大臣内田常雄氏より |
| 一、昭和46年1月 | 勲五等瑞宝章をうく |
| 一、昭和46年1月 | 従六位に叙さる |



昭和46年1月8日、田中エツ園長の葬儀 聖ルカ教会 司祭 富田正進牧師

第39回から第43回までの卒園写真

昭和40年度 第39回卒園写真

昭和41年度 第40回卒園写真

昭和42年度 第41回卒園写真

昭和43年度 第42回卒園写真

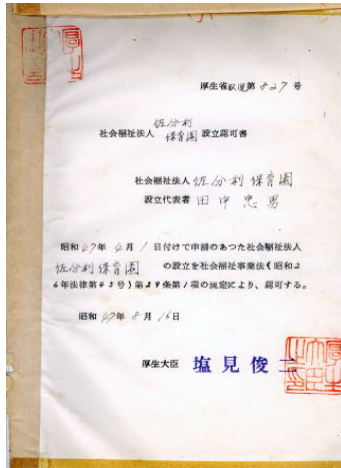
昭和44年度 第43回卒園写真 これが田中エツ園長の卒園式です。

昭和46年1月6日 田中忠男（25歳）佐分利保育所の経営を引き継ぐ

田中エツの死後、その孫田中忠男元園長が経営を引き継ぎ、保育所の改革期に入る。最初に手がけたことは保育の近代化でした。すべてが近代化とはいきませんが、「強い子、元気な子」の保育目標のもと個性ある保育をすることでした。それには地元の保母、高浜、三方から小車田区の山本修家に下宿してた保母がおり、その職員さんに伸び伸びと保育に専念できる環境を作ること私の大事な仕事でした。また施設の開放にも心がけました。中尾先生にピアノ教室を開いていただき、園児には渡辺淳先生を招き毎週1回絵画の教室、職員には湯田先生が生活指導を指導していただきました。



昭和47年8月16日 厚生大臣より社会福祉法人佐分利保育園として認可

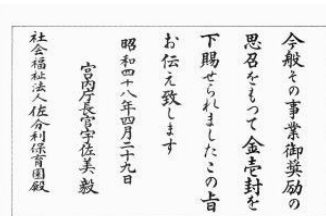


昭和47年8月 まず保育所の法人化に取り組み、厚生大臣より社会福祉法人佐分利保育園として認可を受ける。それを期に保育内容の近代化を図り、さらに老朽化した園舎建築事業に着手した。即ち別掲の如建設趣意書のもと佐分利14区500世帯の各位と卒園者800名および特志家にもご賛同を頂きその額、200万円余りとなり、主に、屋外遊具等を購入した。園舎建築費は、日本自転車振興会（別掲）945万円大飯町（別掲）300万円共同募金35万円等の補助金に加工総額75501千円といたし、当法人が経営する佐分利保育園は、当地出身田中松太郎牧師が当時佐分利村長（現大飯町）中川自民氏より、木炭業者稲作農家の共がせき家財より幼児をあずかる託児所開設の依頼を受け、昭和二年五月に佐分利託児所として県に届出事業開始以来、昭和二十三年七月佐分利保育園施設設置として、県知事より認可され、昭和四十六年一月六日、開設以来幼児保育にあたった田中エツ前園長の他業。そしてその後、昭和四十七年八月厚生大臣より、社会福祉法人佐分利保育園の認可をいただき、現在に至っております。なお現在までの卒園者は八〇〇名を超えております。現園舎は昭和九年一月高松宮殿下奨励金御下賜金をいただき建築されて以来四十年を経過し、老朽はなはだしく保育施設上多大の支障を来しておりますので、早急にこれを新築する事を切望されてい

現園舎は昭和九年一月高松宮殿下奨励金御下賜金をいただき建築されて以来四十年を経過し、老朽はなはだしく保育施設上多大の支障を来しておりますので、早急にこれを新築する事を切望されてい
今度当法人役員一同一致協力して自己資金を集め、又県、町当局にも御願いを
し、尚、日本自転車振興会等各方面の御支援のもとに建設の準備を進めて参り着工の運びとなりました。しかしながら園舎新築に必要な予算もかなり多額となる実情である為、各界諸氏の格別なる御支援と御協力を頂き本事業を完成し、たく計画いたしました。御厚情を賜りますよう伏して御願い申し上げます。なお事業完成の時は、一意専心、当保育園の幼児保育補費、社会福祉の増進に寄与する所存であります。なにとぞよろしく御願い申し上げます。

昭和四十八年七月
福井県大飯郡大飯町石山第二十号
一四番地
社会福祉法人
佐分利保育園舎改築事業
発起人
理事長 田中 忠男
理事 盛下修治 理事 中川富貴
" 榎原啓司 " 榎中俊一郎
" 中尾 一郎 " 木村昌次郎
" 角野永栄
保護者会
会長 中川 重蔵
副会長 川尻 久男 見城 一宜

昭和48年4月29日 宮内庁より御下賜金を受く



昭和48年12月5日 新園舎竣工

昭和
社
間
い
月



昭和48年12月23日竣工園舎落成披露が行われる。

園舎落成披露開催。当日は福井県・大飯町・福井県共同基金会および関係当局ならびに近隣ご支援多数のご参集を戴き心ばかりの披露をした。

第44回から第49回までの卒園写真

昭和45年度 第44回卒園写真

昭和46年度 第45回卒園写真

昭和47年度 第46回卒園写真

昭和48年度 第47回卒園写真

昭和49年度 第48回卒園写真

昭和50年度 第49回卒園写真

昭和51年4月より創立50周年を迎えるまでの一年間。

どのような形で式典をもち

叙位叙勲をうけた故田中エツの業績をどのような形で顕彰すべきか

奇しくも故エツの7回忌法要の年である等につき熟慮して参りました。その間、保育園理事緒氏には御熱心な討議の末、更に積極的成案を得たしたいであります。

一、増築工事 昭和48年度の新築直後ではあるが、当時物価高騰のため事業を縮小した関係から室内遊戯場が狭く、よってこれを拡張し、保育室を中央競馬福祉財団の補助金により増築する。

一、顕彰碑建立 故田中エツ先生の業績を末永く後世に伝うため

一、記念誌発行

この三点を重要目標として50周年行事の準備にかかったのであります。

特別会計収支予算書及び追加更正予算・決算書						(単位千円)	
科目		昭和47年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額	
収	I 補助金						
	(1) 国自派	9,450	9,450	9,450	9,450	9,450	
	(2) 大飯町	3,000	1,000	1,000	3,000	3,000	
	(3) 福井県	1,000					
入	II 自己資金						
	(1) 寄付金	500	990	3,215	2,197	2,080	
	(2) 自己資金	300	400	400	700	703	
	III 借入金						
	(1) 振興会		8,500	8,500	8,500	8,500	
出	IV 諸収入						
	(1) 振興会			1,000	1,000	1,000	
	(2) 社費			500		463	
	(3) 個人						
支	合計	14,250	20,340	24,065	25,747	25,591	
	建設費	14,250	20,340	24,065	25,747	25,591	
	設備費			650	750	750	
	外構工事費			810	810	810	
出	別当工事費他			350	350	350	
	備品費			2,265	1,847	1,847	
	式費				150	142	
	準備費及び雑費				500	582	
支	合計	14,250	20,340	24,065	25,747	25,591	

1. 建設費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
2. 設備費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
3. 外構工事費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
4. 別当工事費他	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
5. 備品費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
6. 式費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
7. 準備費及び雑費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
8. 合計	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額

1. 建設費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
2. 設備費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
3. 外構工事費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
4. 別当工事費他	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
5. 備品費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
6. 式費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
7. 準備費及び雑費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
8. 合計	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額

1. 建設費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
2. 設備費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
3. 外構工事費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
4. 別当工事費他	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
5. 備品費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
6. 式費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
7. 準備費及び雑費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
8. 合計	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額

1. 建設費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
2. 設備費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
3. 外構工事費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
4. 別当工事費他	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
5. 備品費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
6. 式費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
7. 準備費及び雑費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
8. 合計	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額

1. 建設費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
2. 設備費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
3. 外構工事費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
4. 別当工事費他	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
5. 備品費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
6. 式費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
7. 準備費及び雑費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
8. 合計	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額

1. 建設費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
2. 設備費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
3. 外構工事費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
4. 別当工事費他	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
5. 備品費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
6. 式費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
7. 準備費及び雑費	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額
8. 合計	昭和48年度 当初予算額	昭和48年度 第1回追加予算	昭和48年度 第2回追加予算	昭和48年度 第3回追加予算	決算額

然してその成果として
昭和51年11月着工の遊戯室拡張工事に係わる保育室等増強工事はkk大谷組の懸命な姿勢の間に
昭和52年3月完成し、また故田中エツの顕彰碑は大谷繁春氏の絶大なご援助のもとに見事建立されました。若輩理事長は、各界諸氏、皆様方のこの保育園に寄せられる深い愛情とご協力により、課せられた記念行事を催行できますことは、まことに欣快とする処であり、ここに改めて深甚なる
昭和51年11月着工の中央競馬福祉財団の補助金のもと増築及び改装

昭和51年度 増築工事決算書				
昭和51年度 佐分利保育園 増築工事事業 収支決算書（特別会計）				
（収入の部）				
科 目	予 算 額	決 算 額	増減金額	備 考
助 成 金	4,840,000	4,840,000	0	中央競馬社会福祉財団補助金
自己資金	125,000	125,000	0	理事長寄付金
借 入 金	1,500,000	1,500,000	0	福井県社会福祉資金
合 計	6,465,000	6,465,000	0	
（支出の部）				
科 目	予 算 額	決 算 額	増減金額	備 考
建築事業費	6,215,000	6,215,000	0	大谷組建設費 増築分
設計管理費	250,000	250,000	0	治 建築設計事務所
合 計	6,465,000	6,465,000	0	

（収入の部）		昭和51年度中央競馬社会福祉財団の社会福祉施設 増強費等助成金の交付について（決定通知）	
貴施設からご提出のあった昭和51年度事業費増設計画申請書を 検討審査の結果下記のとおり助成金の交付を決定しましたのでご 通知いたします。		なお種別等の工事については契約事務、備品等の購入にあ っては見積書を提出して下さい。	
計画実施にあたりましては、かねて、ご送付いたしました中央競 馬社会福祉財団助成金交付要綱等に基づき適正をきずるようご依 頼します。		記	
1. 施設整備等助成金		4,840,000円	
但し、実施計画申請書のとおり		（田中茂男）	

昭和52年5月16日 創立50周年

昭和52年6月18日 創立50周年記念式典を催す。福井県、大飯町関係者、福井県私立保育園連盟関係者、そして佐分利地域の方々、保護者、園児、職員、法人役員の多くの参列者の下、富田司祭によって顕彰碑の除幕式が盛大に行われた。



昭和45年から52年頃までの保育、行事

佐分利保育所で行う運動会がなく、佐分利小学校運動会と共同開催の形で参加していたが、昭和47年田中園長は本郷保育所の園長さん、当時交通機関は船しか無かった大島保育所の所長さんの処に出向き、合同運動会を提案し快諾を受けた。町内の3園はいつでも60名定員だった。始めは佐分利、本郷、大島に持ち回りで行ってたが、大島に通じる青戸大橋の完成してから、大飯町の中心地、本郷で行われるようになり、今現在も総合運動公園グラウンドで行われてる。勿論、小学校との運動会にも参加し続ける

屋外遊戯場に幼児用プールを設置して、水遊びより一步踏み込んだ水泳の基本を学べさせた。4歳、5歳になると、伏し浮きが出来るほど上達していた。

3園合同運動会

お泊り保育佐分利川の河原でキャンプ

アイヤ

もちつき

交通安全教室

生活発表会

クリスマス会

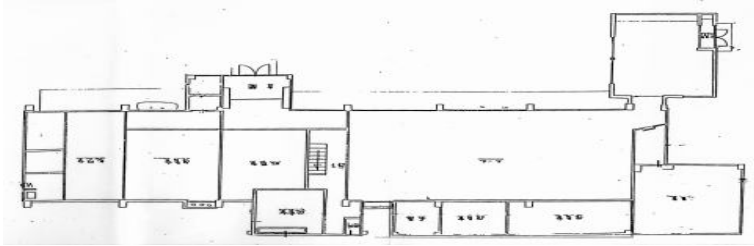
雪遊び

昭和50年から58年頃までの、50年代は豪雪にみまわれ、屋根の雪下ろしを度々行った。降ろした雪は、園児の滑り台としてソリー遊びを良く楽しんだ。

昭和55年度 町補助金をもって園舎増築

昭和48年には、大飯町にとっても町内の私立保育園にとって、良い悪いは別として変革が訪れた。町は本郷区に「五つの家」(町立幼稚園)を設置したのである。それまでの経緯はここでは書かないが、私は町内の税金一人頭にした幼児の教育費の公平を考えると、納得がいかなかった。55年に60名定員を75人にする為の増築もあった。然るに幼稚園並みの年長組の部屋を増設したのである。勿論、玄関も別にした鉄骨造鉄板葺2階建

- 1階 384.27㎡
- 2階 85.51㎡



第50回から第57回までの卒園写真

昭和51年度 第50回卒園写真

昭和52年度 第51回卒園写真

昭和53年度 第52回卒園写真

昭和54年度 第53回卒園写真

昭和55年度 第54回卒園写真

昭和56年度 第55回卒園写真

昭和57年度 第56回卒園写真

昭和58年度 第57回卒園写真

昭和55年度 施設定員を60名から75名に変更

昭和55年の増築で、園舎は今の現況となったが、しかしその当時は増築には消極的であった。だが当局の強い要望で、増築を決意した。それは政府も今、頭を悩ましてる待機児童の問題である。佐分利にも15名ぐらゐの待機児童がおり、その解消のため60名定員を75名の定員にするために、増築を余儀なくされたのであった。しかし、これは経営の立場で考えると、誠に不合理なことが生じるのである。定員が60のときは措置単価が60名単価の適用だったが、75のときは90名単価が適用されるからだ。園児は15名増えても措置費はほとんど変わらないので

ある。それにまた重要な不安があった。園児数が将来的に見て減少するのは明らかであったからである。しかしその当時の佐分利の園児数は、私の園長在任中で一番多い時期でもあったので75名定員は経営的には苦しく、昭和55年度の保育単価表があった。

その保育所の所在する地域区分	その保育所のその月月初日の定員区分	その保育所の長がその初日において設置又は未設置（欠員・無給）の区分	その月月初日の措置児童の年齢区分	保育単価（第1欄）	民間施設給与等改善費加算額（第2欄）		
					10.50%加算分	8.50%加算分	4.50%加算分
					円	円	円
丙地域	46人から60人まで	設 置	3歳未満児	52,270	4,860	3,920	2,070
			3歳児	28,480	2,550	2,060	1,090
			4歳以上児	25,290	2,230	1,800	950
	61人から90人まで	設 置	3歳未満児	47,620	4,370	3,530	1,860
			3歳児	23,770	2,060	1,670	880
			4歳以上児	20,640	1,740	1,410	740

第58回から第61回までの卒園写真

昭和59年度 第58回卒園写真

昭和60年度 第59回卒園写真

昭和61年度 第60回卒園写真

昭和62年度 第61回卒園写真

保 育

佐分利保育園の保育は障害児保育、異年齢児交流事業（体験隊行事）行ってる。主な保育、行事は次のとおりである。

昭和55年度障害児保育を開始

健全児と同じステージで保育してほしいとの保護者からの要望にこたえ、障害児保育を開始した。その後多くの障害児保育を行う。

昭和59年度佐分利保育園ちびっこ消防クラブ発足

現理事成瀬源太郎氏の働きかけにより、当時若狭地方初めての幼年消防クラブが佐分利保育園に発足されたのである。主な趣旨は、子供達に「火遊びをしません」と言うことだった。防火ポスター製作、消防署見学（秋の小遠足を兼ね）等を行っている。



平成4年9月 佐分利体験隊発足

私が佐小グランドで少年野球の指導をしていた時のことである。鹿野の谷口公一氏がグランドにひょっと入ってきた。彼曰く「スポーツだけではなく技術系、文化系の活動も広めようではないか」との提案があった。私がこたえて「そうですね、せっかくきのこの森がつくられたのだからそれを活動拠点として考えて見ましょう」、それから2ヵ月後、佐分利体験隊と称して発足した。隊員は会長ほか8名で編成された。翌年には異年齢児交流事業として体験隊活動を行うこととなった。活動は参加児童、園児とともに佐分利公民館の協力を得て実施された。竹を材料とした水鉄砲作り、竹馬づくり、竹とんぼ作り、たこ作りなどを行い、又ペットボトルロケットも制作し、少し園児には難しかったかも知れないが、紙ヒコーキ作りそして映画会等であった。行事の中で園児、小学生が楽しみにしていたのが、毎年行われたキャンプだった。



名田庄頭巾山キャンプと体験隊スタッフ

お絵かき幼児画

幼児画展と言えば、まず渡辺淳さんが3年間の指導をしてくれたことを、初めに書かなければならない。先生は当時郵便配達の仕事を請け負い、示現会会員で日展にも多く入選していた。その先生が園児に絵画を教えてくれたのだから、感激である。その当時やはり、県幼児画コン

クールに応募して入選していたのは、嶺南では聖ルカ幼稚園ぐらいなものだった。しかし先生の指導により入選者を多く出した、大変喜ばしいことであった。3年後私が引き継ぎ絵画指導にあたった。創造性豊かな絵が幼児画展に入選する。口では簡単だがそれを絵の中に見出すのは至難の技である。しかし、その絵の中に幼児の心を見出せることも事実である。それは児童の絵から心の鏡をしてとらえ分析するのである。私は精神科医ではないから、創造性にしぼって園児の絵を選ぶ。そして数年後、団体、奨励賞、優秀賞を数多くとり嶺南随一と言われる様になりました。



やまもと かほ
(佐分利保育園・3歳)



しろこし りょうた
(佐分利保育園・3歳)



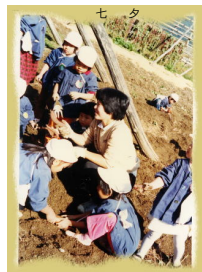
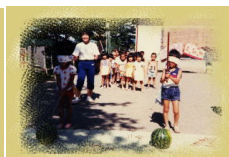
いへやま りょういち
(佐分利保育園・5歳)



かもがわ よしと
(佐分利保育園・4歳)

水遊びプール

昭和50年頃か、それまで園庭にあった幼児用プールではもたなくなり、佐分利小の低学年用のプールをお借りすることになった。年中、年長の園児はおおよそ直線で800mの学校を往復したのである。プール遊びが始まった。遊びと言うより訓練に近かったと思う。その当時は佐分利川の水量が少なくなっており、ほとんどの子が川で水遊びをしないという時代だった。そこで当時、小浜の水泳大会でも例年優秀な成績を出されてる、本郷小学校の教諭にその指導方法を教えて戴いた。その教諭は現在本小校長先生となっている。



七夕



園庭ですいめまつり



佐分利小学校の運動会に参加

夜店まつり

小車田区の山本修氏の畑で芋掘り、くり拾い。山本氏の家のおじいさん、おばあさんの時代からこの目のためにサルに取られないようにいのししに掘られないように大切に芋、くりを育てていただてます。感謝



朽木スキー場でお別れ小遠足

箱館山スキー場でお別れ小遠足

平成7年度 施設定員を75名から60名に変更

昭和55年の増築で園舎で施設定員を75名としたが、平成4年4月当初措置児68名、5年度61名、6年度57名と落ち込んだいった。この措置児の人数で90名単価の適用だった。平成7年度にこの結果をみて、当局はやっと60名単価に戻してくれたのである。保育所の経営はその年度、特に3歳未満児の入園児数によって大きく変わり、その結果保育士が余るという年度が何年もあった。がしかしそれだからといってその度に辞めてくれなうて言えますか、そこは職員全員の昇給ストップで乗り切ってきたのである。その点は民間保育所の宿命みたいなもだったが心から保育士職員に感謝せねばならない。そしてとうとう限界が訪れたのは平成4年以降の入所児童の減少だった。この経験を今後に活かして、「定員増をしてならぬ」という教訓みたいなものが生まれた。その後また大きな変革がおきるのである。佐分利だけでなく本郷は勿論のこと高浜など近隣市町村からの入所が認められるようになり、同時に国の待機児童解消対策で60名なら4月当初は定員の15%増まで、5月当初には25%増まで入所できるようになった。当園にとって願っても無いような環境になっていった。ところがそれだけの人数が満たされると、今度は定員をあげろといってくる。私は頑として受け入れなかった。簡単な試算で年間一千万円措置費が下がるのである。私が保育士に言い訳できる金額ではない。私は多くを望んでるわけではない。今後小児化が続き、60名定員で60名の園児がおるなら幸いである。平成17年度に私が園長を辞める決断をした理由の一つである。佐分利地区の子は現在でも50名前後です。私が辞める決意した年度は予算が立てられなかったからで、給料の高いものが辞めざるを得なかったのである。もう一つの理由はこれから出てくる卒園写真で分ってくるだろう。

平成8年度 時間延長型保育サービス事業 開始

保育所の開所時間は朝7時から6時を基準としてたが、それを1時間延長して午後7時までとなった。はじめは延長保育を希望する保護者には1日100円のおやつ料を収めてもらったが、現

実はそんな時間におやつを食べさせると夕食が食べれない子も出てきて延長保育は望むがおやつは
要らないとのことで、今ではおやつ代を徴収してない。

平成11年度 少子化対策事業補助金を受け屋根の葺き替え工事

大飯町長 時 雨 忍 様		平成 11 年度 佐分利保育園歳入歳出決算書 (特 別 会 計)	
福井県大飯郡大飯町石山20-14 社会福祉法人 佐分利保育園 理事長 田 中 忠 男		歳入の部	
平成 11 年度 少子化対策事業 補助金交付申請書		歳出の部	
平成10年度 において下記のとおり 少子化対策事業 を 実施したので、大飯町福祉保健課所管補助金等交付規程第5条の規定 に基づき 金 2,700,000 円を交付された申請します		科 目	
記		本年度予算額	
1 補助事業等の名称 少子化対策事業		決 算 額	
2 補助事業等の目的及び内容 「安心して子供を産み育てることのできる環境づくり」の一環として保育所施設等 の整備を行う。		予 算 額	
3 補助事業の完了の予定期日 平成11年12月18日 ～ 平成11年12月28日		残 高	
4 実施計画の概要 園舎の目のみやすい環境作りの一環として園舎屋根 の葺き替えをする。		工 事 費	
5 交付申請額 金 2,700,000 円		消 費 税	
6 補助事業等の経費の配分及び経費の使用内訳 平成11年度特別会計予算書抄本 見渡部、図書、工事課長助的部、管工部、工務部 工事写真部、工事完成部、徴収部		計	

平成12年3月31日 園長田中忠男が社会福祉法人佐分利保育園理事長を退任

同年4月1日 理事長に第5代経営者 田中康介が就任

新会計基準準拠の施行

平成12年度は国の会計基準が変わり、それに伴う会計ソフトを変更した。しかし、このソフト
は私が造ったものだから変更できたが、それまで無かった減価償却の考え方を理解するまでかな
りの時間を要した。それだけでは無い。資金収支計算書、事業収支計算書、貸借対照表等の整合
性が理解できていなかった。当時、県の指導監査に来ていただいた方が、後にその移行後の整合
性を示す書類のコピーを送っていただいた。感謝。今でやっとその整合性が分るようになったか
ら当時は大変だった。 第74回から第77回までの卒園写真

平成12年度 第74回卒園写真

平成13年度 第75回卒園写真

平成14年度 第76回卒園写真

平成15年度 第77回卒園写真

平成14年4月1日 苦情処理委員会が発足 別掲

平成17年4月1日 第三者評価基準制度が施行 別掲

平成17年9月30日 第4代経営者 園長田中忠男 退任

祖母田中エツ園長から引き継ぐこと35年にて退任の決断をしたり。とりあえずは施設長を副園
長清水敬子にまかせ、後に田中康介が正式な園長に就任した。

園長田中忠男 退任の挨拶状

拝啓 秋冷の候、ますますご健勝のことと存じます。
さて、私はこのたび、九月三十日をもって佐分利保育園園長の職を
辞したことをご報告させていただきます。
思えば昭和四十六年一月に、祖母田中エツより保育所の経営を引継
いでこの今日までの三十五年間、園舎改築、保育の近代化、法人設立
等を手がけてまいりました。その間、保育制度の変遷、過疎、少子化
等の問題に翻弄されましたが、延べ二千人以上の措置児を大過なく保
育できたことは、私の何よりの喜びとするものであります。これは一
重に、法人役員、保育士職員、大飯町並びに地域住民の皆様の公私に
わたる温かいご指導とご厚情の賜物であったと思っております。心か
ら御礼申し上げます。有難うございました。これからも、何とぞ変わ
らぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。 末筆ではあります
が、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。
平成十七年十月吉日

敬具

平成16年度 第78回卒園写真

平成18年4月1日 学童保育が始まる

この18年度より学童保育を開始した。佐分利児童クラブを発足、保育士が学校から直接「佐分利公民館」に帰ってきた児童の指導にあたり、あそびや生活の場を通じて、児童の健全育成に努める。

平成18年12月1日 理事長田中康介が園長に就任。

第80回の卒園写真

平成17年度 第79回卒園写真



平成18年度 第80回卒園写真

保 育 (思い出のアルバムから)

通常の保育以外に講師をお招きして、園児にご指導していただいている。習字教室は平成4年度から田中景子先生、その後は池野やな枝先生に引き継いでもらい現在に至る。また平成11年度から始まった英会話教室は谷口マリアン先生に現在までご指導いただいている。その後講師を2人制にしてから、中川アリン先生、現在は益井コーナ先生をお願いしている。



おいのり



佐分利郵便局からいただくチューリップの花が咲きました



保育園の裏手の山裾のブルーベリー農場に行っておいしかった



誰が一番ひにやけたかな



平成18年度卒園式の年中組みさんの写真です。

前年度まで本郷区の園児で、年長のとき幼稚園に行かれた方、そして何らかの事情で年長までおられなかった方々が入ってません。大変申し訳御座いませんでした。もしお気づきのかたは「思い出のアルバム」から一枚送付していただければ、このページに載せさせていただきます。

創立80周年記念誌を編集するにあたって

私が17年に園長職の退任を決断したおりに、社会福祉法人・佐分利保育園の「沿革史」を著すべきと考えました。そしてこれが、私にとっての最後の仕事になるであろう、などと思っているうちに、すでに2年が過ぎてしまいました。いつまでものんびり構えているわけにはいきません。そろそろ、本格的に、『佐分利保育園80年誌』の仕上げに取り組んでしかるべきでありましょう。――私がこれから編集・執筆する『社会福祉法人・佐分利保育園80周年記念誌』は、前々代の田中エツ園長が口述して中川長次郎氏が記録した『創立30周年記念史』、それをベースに私か手がけた『創立50周年記念誌』を参考にしたものになるでしょう。さらには、実兄・佐々木信雄（翻訳家）のホームページに記された創立者・田中松太郎にまつわるエピソードも引用する所存であります。それぞれの時代に登場する方々



平成18年度 ひまわり組 卒園写真

のお名前に言及し、当時の写真を掲載をさせていただくこともあるかもしれませんが、そのさい、失礼のないように万全を尽くしたいと思っておりますので、なにとぞ、お許しをいただけますようお願いいたします。 平成19年2月 元園長 田中忠男

平成19年5月16日 創立80周年記念日

昭和2年5月16日創立者田中松太郎が佐分利託児所を県に届出て事業を開始して以来、田中卯一郎、祖母エツそして田中忠男、現園長の5代を経過して、この日を迎えることとなった。無料通年制で事業を開始した松太郎、そしてそれを支え戦前戦後を乗り切り、児童福祉法が施行後、昭和24年保育所認可を県下一番で認められるまでの、祖母エツの労苦を考えると筆舌に尽くしがたく、現在我々保育に係わるものとしては、心して経営・保育を行わなければならないと感じるのであります。あらためて、その時代に佐分利託児所・保育所を支えて戴いた、佐分利村・大飯町・佐畑区・保護者の皆様方に厚く御礼申し上げます。またこの80周年はあくまで通過点に過ぎず、今後ともおおい町はもとより、高浜町をはじめ近隣市町村の幼児保育（教育）、子育て支援等に邁進する所存であります。

元園長田中忠男はこれを記念して、80周年記念誌を2年がかりで計画、執筆活動を行っていた。決して十分な内容ではないが、これをインターネットに公開することで、元園長の職務としての沿革誌（史）は終わった。

元園長田中忠男は厚生労働大臣表彰等数々の表彰を受け、退職後平成18年2月7日県政功労者表彰を受く。

創立80周年の佐々木信雄が父の地蔵堂から採集されるが、来年園舎改築も控えてることから式典は後日を見計らってからだと思う。しかし、園児にはこれを記念して、80周年記念「おもい石鑑」を作成し、幼稚園を暫食学校とつなぐ。左端が高等科（新制中学）の校舎だった。もちろん、まん中が講堂。左の校舎1階に職員室が、さらには、その手前の渡り廊下北側に保健室があった、と思う。月並みだけど、ひどく懐かしい。また、「大飯郡誌」（昭和6年度版？）637ページには、佐分利の託児所についての記事があった。＜佐分利託児所は田中光大師の経営にして昭和二年五月十二日の創設なり＞と書かれてある。このころ、わが祖父は“田中松太郎”ではなく、“田中光大”を名乗っていた。



創立者略歴 △田中光大 △明治四年五月生△原籍、福井県小濱町△受洗、大正三年十一月△受按、大正十年五月△出身、聖書学院△前任、栃木自給伝導館及四谷キリスト教会△現任、東京府下目黒四二〇、目黒キリスト教会△妻及男児二名、女児二名△教派、キリスト教会△現住所、東京市外下目黒四二〇教会内＞「基督教年鑑」・（大正14年度版「年鑑」の「フース、フー」）・佐々木信雄所有資料より。



平成19年10月1日 子育て支援センターの開設

子育て支援センターは、乳幼児をもつ保護者の子育て情報交換、ふれあいの場として保育園を開放、また保育士による育児相談（出張相談も含む）、育児経験者、講師等の勉強会を行う事となった。

平成19年12月15日 <改築>に備え園庭の樹木伐採（檜・樹齢およそ85年）

